



名古屋のいろいろな植物を知ろう！

－ 帰化植物とは？ －

名古屋市立大学 システム自然科学研究科附属 生物多様性研究センター



き か しょくぶつ 帰化植物ってなに？

帰化植物とは、本来の自生地から人間の活動によって他の地域へ運ばれ、野生化した植物のことです。2012年発刊の愛知県ブルーデータブックによると、愛知県内には845種の帰化植物があり、名古屋市内からは566種が報告されています。江戸時代以前に侵入した帰化種も知られていますが、ほとんどは明治時代以降のもので、最近では物流の行き来がますます激しくなり帰化植物が急激に増えています。

き か しょくぶつ 身近に見られる帰化植物

帰化植物の多くは都市近郊の道路、空き地などを生育場所としています。市街地で見られる帰化植物種の割合は3割程度ですが、量的には7割を超えているのではないかと思います。要するに、帰化植物で埋め尽くされているのです。代表的な帰化植物としては、オランダミミナグサ、オオイヌノフグリ、ノボロギク、コニシキソウ類、マツヨイグサ類、ホナガイヌビユ、ホソアオゲイトウ、ハルジオン、ワルナスビ、ヒメジョオンなどが挙げられます。

- 市街の路上で見つかる帰化植物



オオアレチノギク(ブラジル原産)



ヒメジョオン (北アメリカ原産)



タカサゴユリ (台湾原産)



セイトカアワダチソウ (北アメリカ原産)



市街の路上



ヒムカシヨモギ (北アメリカ原産)



シナダレスズメガヤ (アフリカ原産)



メマツヨイグサ (北アメリカ原産)



コニシキソウ (北アメリカ原産)